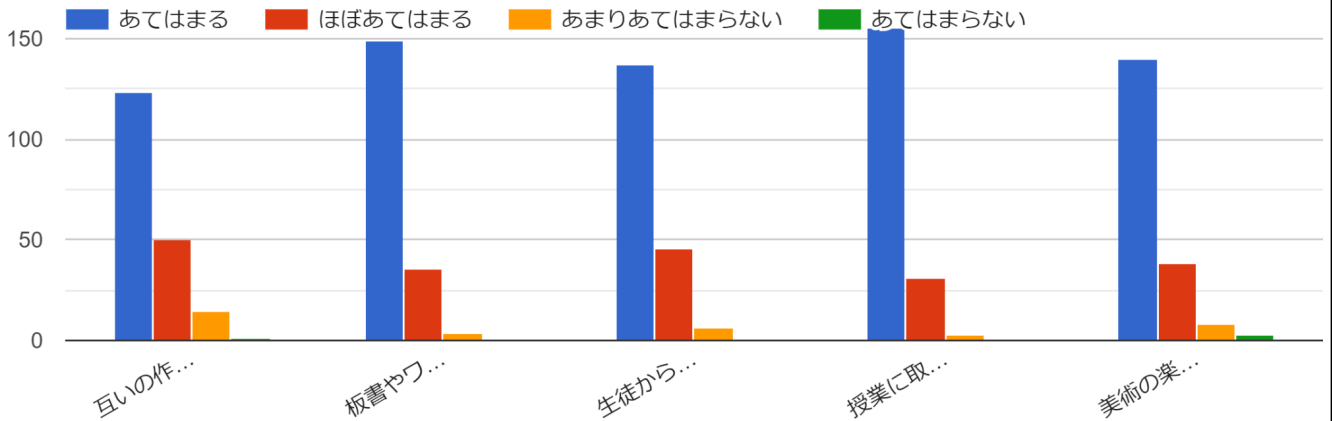


教科名： 美術	重点目標：・感性や想像力を働かせた、独創的で豊かな発想を育む。 ・創造的なよさや美しさを感じとり味わう(鑑賞する力)を高める。
---------	--

学習指導に関する現状と課題(1学期 生徒による授業評価アンケートより)

1年 美術の授業について

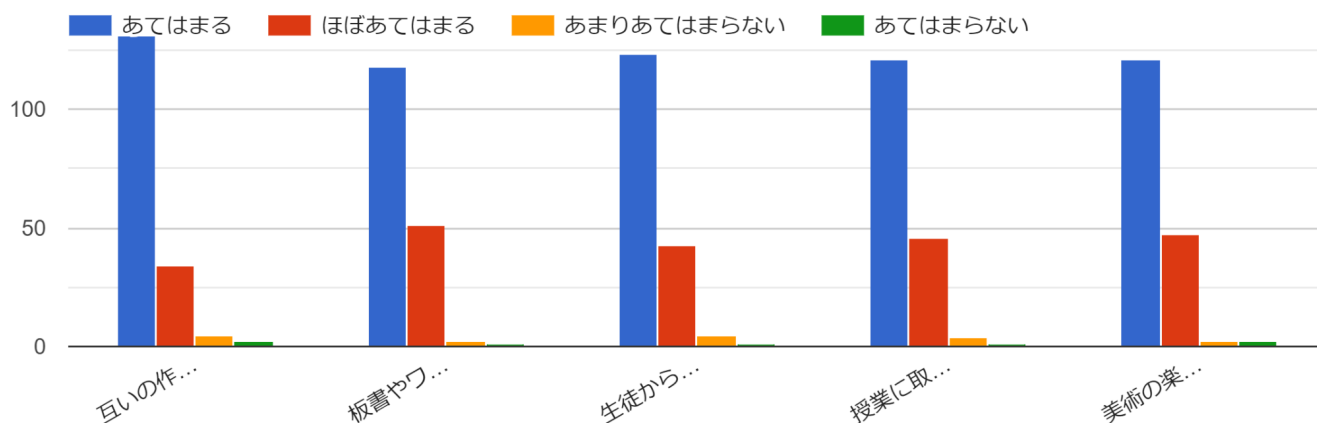


- ・互いの作品に刺激を受けたり、学び合いや振り返りの時間が設けられている。
- ・板書やワークシートは分かりやすく作られている。
- ・生徒からの質問に丁寧に答えている。
- ・授業に取り組みやすい環境になっている。
- ・美術の楽しさや日常生活の豊かさにつながっていると感じる。

分析

- ①1学年1学期の授業のめやすとしては、基本的な美術室の利用の仕方や道具などの使い方について生徒が知り、理解することを目的としている。その観点からは「授業に取り組みやすい環境になっている」が最も高い数値となっているのは良い結果と捉えている。
- ②「互いの作品に刺激を受けたり、学び合いや振り返りの時間が設けられている」については、まだ自分の制作だけで手一杯になっている状態の生徒が多いことを示している。中学美術の環境に馴染むのには時間が必要だが、個人の作業のみに偏らないように工夫をしていく。
- ③上記②の結果が影響していると思われるが、最後の項目「美術の楽しさや日常生活の豊かさにつながっていると感じる」がやや低く、【あてはまらない】が唯一ある。この項目は文科省の指導要領につながるものであり、美術科として最終的にめざすものである。美術科の授業が単に成績や進路のためだけにあるものではないので、生徒にとってこの項目が一番高い数値を出すように、今後も工夫と改善を重ねていく。

2年 美術の授業について



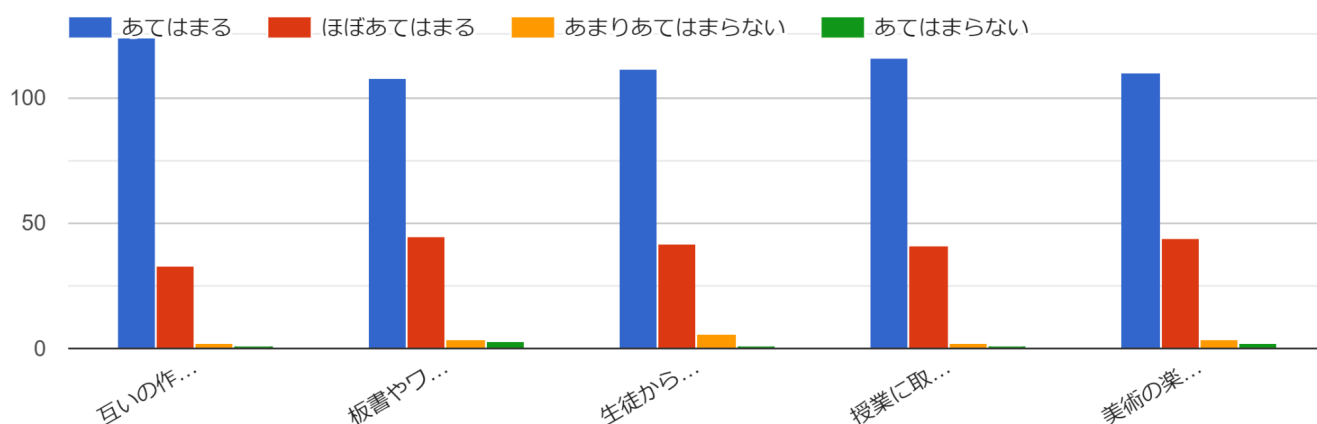
- ・互いの作品に刺激を受けたり、学び合いや振り返りの時間が設けられている。
- ・板書やワークシートは分かりやすく作られている。
- ・生徒からの質問に丁寧に対応している。
- ・授業に取り組みやすい環境になっている。
- ・美術の楽しさや日常生活の豊かさにつながっていると感じる。

分析

①2年生になり、前年度1年間の授業の積み重ねから「互いの作品に刺激を受けたり、学び合いや振り返りの時間が設けられている」の項目は高くなっていると思われる。この項目での授業実践内容としては、単元終了ごとに行っている『講評会』があてはまる。互いの作品を鑑賞し合い、コメントを付箋で貼るといった他者の作品や意見を知ることで、自らの作品や計画についてふりかえる時間としている。アンケートの数値も高いが、この年代の発達においては、同年代からの刺激が最も高いと言われているように、作品レベルの高さからも今後継続し、授業効果を上げていきたい。

②互いの作品に刺激を受けたり、学び合いや振り返りの時間が設けられている」と「美術の楽しさや日常生活の豊かさにつながっていると感じる」の両項目に【あてはまらない】と回答がある。これは美術科の授業において、閉塞感をもって望んでいる可能性がある。授業のなかでどのように自分の感性を広げていってよいか戸惑っているかもしれないので、授業内で専任・講師で協力して授業改善をしていく。

3年 美術の授業について



- ・互いの作品に刺激を受けたり、学び合いや振り返りの時間が設けられている。
- ・板書やワークシートは分かりやすく作られている。
- ・生徒からの質問に丁寧に答えている。
- ・授業に取り組みやすい環境になっている。
- ・美術の楽しさや日常生活の豊かさにつながっていると感じる。

分析

①どの項目も同じような数値を示している。これは3年生が美術科の授業について流れを周知しており、安定した制作を行っていることを示していると思われる。今後も継続して取り組みやすい環境づくりを行っていく。

②「板書やワークシートは分かりやすく作られている」と「美術の楽しさや日常生活の豊かさにつながっていると感じる」に【あてはまらない】の回答がある。3年になり、前年度よりも課題の求めるレベルがあがり、それに伴い、板書やワークシートの内容も抽象的な指示になってきている。理解に対して支援の必要な生徒もいると思われるので、作業時間内での生徒の様子に注視し、支援を実践していく。